

「うわっ！高いわー、教科書。」

去年高校に入学した姉の教科書代を見て、母が大きな声を上げた。

私には二歳年上の姉がいる。来年私も高校へ進学すると教科書代は二倍になる。

「お母さん、なんかごめんね。」と言うと、母は「なんでなんで！今まで九年間も沢山の人の支えてもらったんよ！ほんまにありがとうやね。」とニコッと笑った。

四月になると学校では毎年、当たり前のように教科書がどっさりと配られる。行きは春休みの課題しか入っていなかった学生鞆も、帰りには肩に鞆のベルトが食い込むほどの重さになる。「重い。もう嫌だ。肩が痛い。」文句ばかりを頭に浮かべながら下校した。

テスト期間はイライラして、ページのすみっこに落書きをしたり、国語の教科書なら作者、歴史の教科書なら偉人の写真にひげを描いたりした。

お世辞にも大切にしていたとは言いにくい教科書。でもそれは沢山の納税者からの大きな、でも少し気づきにくいプレゼントだったんだと気づかされた。そう思いながら改めて教科書をじっと見てみると、こんなことが裏表紙に書いてあった。

「この教科書は、これから日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

ドキッとした。小学校に入学してから、何度も何度も帰って帰り、毎日毎日生活を共にしてきた教科書に、こんなメッセージが入っていたなんて。これから日本を担う私たちに期待をしてくれているという嬉しいメッセージ。心の底から、「もっと大きく書いてくれていいのに！」と思った。

「知識や学び、体験や経験は誰にも、どんな時でも盗まれない財産なんだよ。その財産は頭の中の宝箱に入っているから誰にも取られないんだ。」

長期休暇でいつも嫌そうに課題をしていると祖母が口癖のように私や姉に言う。祖母は戦時中に生まれ、混乱の戦後の日本と共に生きてきた女性だ。貧乏で貧乏でお弁当の中身が恥ずかしかったこと。何度もお願いして高校へ行かせてもらったこと。学費を返済するために高校へ行きながら美容学校へ通い、高校卒業後美容師になったこと。

何度も何度も話してくれる祖母の頑張り自慢の中にはこんなものもある。

「毎日ちゃんと申告して、税金も年金もきちっと払ってたんやで。税をきちんと納められる生活をしていることは、本当に幸せなことや。」

私は来春中学校を卒業する。九年間、沢山の納税者の方に授けてもらった財産を、頭の中の宝箱に入れて高校へ進学する。高校生活でまたこの財産を大きく育てて、学びのバトンを渡せる大人になりたい。そして祖母のように、きちんと納税できる幸せを体験したい。